

特集 地域における生涯学習機会の充実について

巻頭言 ● 8 学社融合の考え方 ◆伊藤正巳

座談会 ● 10

様々な機関・施設における生涯学習機会の提供について

◆出席者 木村 孟／大野 忠／宮操一／鈴木敏恵／司会 北村幸久

論文 ● 20 創造的な人材の育成に向けて ◆和田龍幸

● 24 「新しい風」はどこまで広がったか ◆永井順國

エッセイ ● 28 卒業生の戻れる場所 ◆服部幸應

事例紹介 ① ● 30 生涯学習時代と大学博物館 ◆東京大学総合研究博物館

事例紹介 ② ● 33 ミニ大学院アフターファイブコース ◆豊橋技術科学大学

事例紹介 ③ ● 36 「開かれた学校」を家庭・地域・学校の連携で…市川市「ミニティスクール」 ◆千葉県市川市教育委員会

事例紹介 ④ ● 39 生涯学習を支援する教育ボランティア活動 ◆国立科学博物館

事例紹介 ⑤ ● 42 宇宙学校—開かれた研究所を目指して ◆宇宙科学研究所

解説 ● 44 最近の生涯学習審議会の動きについて ◆生涯学習局生涯学習振興課・社会教育課

特別記事 いじめの問題に関する総合的な取組について

● 52 いじめ問題の解決に向けて

一人一人が行動するとき

「児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議」報告

◆初等中等教育局中学校課

「ある日の学校訪問記」

◆駒ヶ根市立赤穂南小学校 ◆長野県

4 天然記念物歳時記—花こよみ

◆赤井谷地沼野植物群落 ◆福島県

表2 名作シリーズ ◆麗子肖像

（麗子五歳之像）

表3 文化財紹介

◆上中町熊川宿 ◆福井県

6 鑑賞席

◆プロジェクト・フォー・サバイバル
生存への意志

60 焦点 ◆文教施策

65 お知らせ

67 どんな講座—こんな講座—大学の公開講座から

◆富山医科薬科大学

68 ポイント生涯学習

◆電子博物館プロジェクトの推進

70 科学はいま—理工系へのいざない

◆京都大学超高層電波研究センター

73 都道府県発—教育・学術文化—スポンサー

◆岩手県 ◆神奈川県 ◆富山県

◆滋賀県 ◆兵庫県

76 現代スポーツあれこれ

◆スポーツサイエンスの時代

78 ぼくたち、わたしたちのウィークランド

◆島根県海士町教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◆城の崎にて

84 編集後記

ここ一〇年来、卒業生から、服部が「母校」であるという嬉しい話を、よく聞くようになった。それは、料理のプロ対象の講習会やテレビの料理番組を積極的に展開するようになってからのことだ。現場は実践であり、調理場で培われた勘と経験が勝負の世界。この職人かたぎの料理人たちの間で少し変化が起きてきたのである。

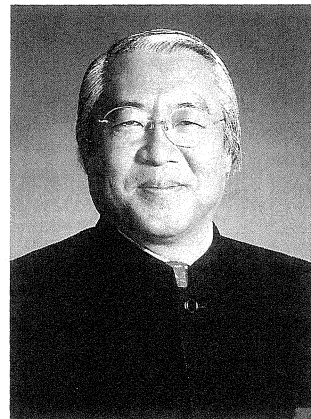
我が校の料理の新情報などの意欲的な取組が評価された結果である。そして、我が校の出身であることが誇らしいという卒業生の声が多く聞かれるようになったのである。我が校をやっと「母校」と言ってくれる時が来たようだ。

このようになるまでに、長い歳月があった。昭和三〇年代の調理師学校創世期の卒業生が現場に入ったころは、調理師学校出身ということは禁句であり、御法度であつたのだ。現場で育った包丁人からみると、学校出身者は、敬遠された。今日、当時の先輩に話を聞くと口を揃

エッセイ Essay

服部学園服部栄養専門学校
理事長・校長

服部幸應



えて「我々は『隠れ服部』でした。」という言葉が、返ってきた。現場では、○調理師学校は避けて、その前の出身校である○高校卒を使わざるを得なかったところまである。

そんな状況の中で、変化したことには理由がある。二〇数年前のことである。「食べる」ことは万人に共通のこと、欧米、中国、日本などの各料理の世界で超一流とされる料理人には、共通の真理があるはず。例えば探求心、向上心またはサービス精神といったものである。高度に磨き抜かれた技術と料理人としての心、これらを合わせて、教科書では教えない部分に目の前で直接触れられる機会を、在校生のために実施したところ、どこで聞きつけたのか卒業生からの希望が殺到した。そこで、卒業生や一般のプロの料理人にも、門戸を開放したのである。そして、再流教育の一貫として実施した結果なのである。

この一年間だけでも、バリの三ツ星レ

ストランのオーナー・シェフ、ジョエル・ロビュシオン氏など六名程の料理人が来日し、実習や講演など、現場が今一番に求めている技術や知識の情報を提供してきた積み重ねが評判になり、現場に戻ったプロの料理人が職場において学園の存在を、ひいては、卒業生も認めてくれるようになったのである。日常会話の中にも、話題として、学校が登場するようになったとのこと。無論、テレビの影響も大で、料理人の社会的地位の向上や、

はっとり・ゆきお 東京都出身。現職のほか、(財)全国調理師養成施設協会副会長など。平成7年度文部大臣表彰(専修学校教育功労者)。テレビ「料理の鉄人」、「作法の極意」出演などのほか著書多数。

質的な内容充実に拍車をかけた。

今、小学生の一番人気の職業は、なんと「料理人」だそうである。現在一八歳人口は年々下降しているにもかかわらず、調理師の分野はますます人気が出て来たようである。もつと幅を広げて多くの人材を送り込みたいと願っている。そして、いつでも必要な時に戻ることのできる最新情報提供の場こそ、生涯教育ではないかと考えている。そして母校と呼べる学校にすることが大切であろう。

卒業生の戻れる場所

特集 ● 第15期 中央教育審議会 第一次答申

●巻頭言
21世紀を展望した新しい
教育を目指して — 奥田幹生

●座談会
21世紀を展望した教育改革
—出席者 有馬朗人／黒田あゆみ／中川志郎
森 隆夫／司会 富岡賢治

●論文
中教審答申を読んで

—天笠 茂／森田洋司／詫摩武俊／松下俱子
掛川 久／清水康敬／米村伝治郎／櫻井 修

●エッセイ — 里中満智子／薄田泰元

どんな講座こんな講座 — 大学の公開講座から
—東京成徳大学・名古屋大学
都道府県発 — 教育・学術・文化・スポーツニュース
青森県・新潟県・千葉県・山口県

編集後記

▽今月の特集テーマは、「地域における生涯学習機会の充実について」です。生涯学習もすっかり定着した感がありますが、学習意欲が高まるほど学習機会の提供・充実が大きな問題となります。

本年四月に出された生涯学習審議会の答申を紹介しながら、生涯学習の今後を考えます。

▽アトラントオリンピックが終わって一月余りが過ぎました。日本選手の応援に、また、すばらしいレベルの競技の連続に寝不足になった方も多かったと思います。決勝進出はならなかったとはいえブラジル戦など二勝した男子サッカ―、女子マラソンの有森選手、男女柔道陣の活躍、あまり知られていなかった（私だけでしょ）ヨットの重・木下チーム等々たくさんさんの感動を与えてくれました。

また、陸上の男子短距離や女子長距離のようにメインスタジアムでの活躍も目立ちました。金三、銀六、銅五のメダルの数に様々な声もあるようですが、日本選手はすばらしい活躍をされました。アクシデントや実力を発揮できなかった選手もいます、今後の活躍も期待できるものと思います。私個人としては、女子マラソンの浅利選手や陸上短距離の金沢イボンヌ選手、朝原選手等々にはシドニーでも頑張ってもらいたいと思っています。

選手活躍と同時に国際舞台で日の丸を見ると感動をおぼえます。もともとつと国を愛する気持ちを持たなければと思いました。

活躍された選手の中から数名の方に、文部時報に登場いただくことを予定しております。御期待ください。

(T・K)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んでの感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定

①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記（誌上匿名可） ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただきますことがあります。

送り先

〒100 東京都千代田区霞が関
3-2-2

文部省大臣官房政策課

「文部時報」編集部

※電子メールでも受け付けております。

宛先名 「jiho@monbu.go.jp」

●「文部時報読者アンケート」

文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。

宛先名 「jiho@monbu.go.jp」

MESSC. 61 月刊

文部時報 9月号

第1438号

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成8年9月10日印刷
平成8年9月10日発行

定価600円（本体583円）（〒84円）
年間購読料7,200円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1996 ISSN 0916-9830 ●この刊行物は再生紙を使用しています。